

# KSKP えのき NEWSLETTER

地域で当たり前に暮らすために

編集人：社会福祉法人えのき会  
理事長：古川 末子  
京都市伏見区桃山町山ノ下44-8  
075-605-0303 (TEL)  
075-605-0310 (FAX)  
e-mail: info@enokikai.or.jp  
http://enokikai.or.jp

## 一恵さん 50歳 おめでとう！



パースディケーキを前に一恵さん

にも彼女を見守り、消えそうなる命を守り続けてくれました。彼女が、それに応えたから今があると思います。私たちは、彼女から



ご両親と一緒に

「生きてこそ」の歌詞に「生きてこそここから始まる」「生きてこそつながってまた広がる」「生きてこそ、その根は太く強くあります。」

えのき会が、また無認可の団体であった頃から活動に親子参加していた、北野井一恵さんが、昨年12月29日50歳の誕生日を迎えました。

これまでの養護学校時代から現在まで、入退院の繰り返しの中「家」で過ごすより、病院での生活の方が長い人でした。

それだからこそ、重度心身障害のある彼女が、50歳の誕生日を迎えられたことには、大きな意味があります。

一恵さんの命を守るために、医療者をはじめ福祉従事者等、多くの人が幾重にも彼女を見守り、消えそうなる命を守り続けてくれました。

彼女が、それに応えたから今があると思います。私たちは、彼女から

言葉を越えた大切なものを受け取りました。「榎の家」で、利用者、職員、ご両親も参加して、ささやかなお祝いをしました。

「一恵さんの50歳の誕生日に向けて、お母様から、何かお祝いをしてもらえないかとご要望があり、記念となる日を一緒に祝いさせていただけたい」と思っていた、榎の家、さくらの家の職員全員で話し合い、ご本人やご家族に寄り添った会にしたいと、計画を進めてきました。その中で、「生きてこそ」と一恵さんの好きな沖縄の歌「童神」の2曲をみんなで歌おうと日々練習をしました。

「生きてこそ」の歌詞に「生きてこそここから始まる」「生きてこそつながってまた広がる」「生きてこそ、その根は太く強くあります。」

## 寒中お見舞い 申し上げます

皆様のご健康とご多幸をお祈りいたします。本年も、どうかよろしくお祈り申し上げます。



2018年

社会福祉法人えのき会  
役職員一同

※※※

【北野井千恵子さん(お母様)より】

幾度も命の危機を乗り越えながら、50歳を迎えられたことに大きな感慨を覚えます。

今日まで、多くの人に力を貸して頂いたからこそ、迎えられた50歳だと思います。

だから、一恵もそれに応えようとこれまで頑張ってきたのだと思います。多くの人に愛されて来たことが、一恵の生きる力となり、その愛に比べようと、一恵なりに必死で生きてきたのだと思います。

私も親として、一恵が頑張っている事で逆にエネルギーを貰いながら、これからも頑張っていきたいと思っております。一恵には、このまま一日でも長く、元気で、私たちのそばにいて欲しいと思います。これからも、皆様よろしくお祈り致します。



### 「新成人のおふたりに寄せて」

これまでの二人の写真を拝見し、昔から変わることない素敵な笑顔に、思わず笑みがこぼれました。これからも、素敵なおふたりに出会い続けられるよう、楽しいデパートにしていきたいと思っています。(H)

### 澤奈さん 玲美さん 20歳おめでとう！

ディールームを賑やかな雰囲気にして下さるお二人に、いつも元気をもらっています。これからも共に笑顔で楽しく過ごせる空間をつくっていききたいと思っています。(K)

### 地域貢献できる活動拠点の整備をめざして

年末に50歳を迎えられた利用者の誕生会をご両親同席のもと開催することになり、榎の家・さくらの家に通所されている利用者と職員が集う事となった。短い時間ではあったが、共に祝うことができ、過去に入退院を繰り返されたなかこの日を迎えられ、ご両親からこれからもますますがんばると語られた思いに職員は目頭を熱くした。

一度の人生、それぞれの生き甲斐を求め、我々は何処まで寄り添うことができているのか考えさせられると同時に、この一時を共有できたことが明日への活力に繋がると実感した日でもあった。

えのき会は重度の障害のある子どもを抱えたご家族が創設された法人である。重度の障害があっても安心してあたりまえに地域で暮らし続けられる社会をめざしている。これからの世にも、これまで同様、重度の障害がある生命が誕生していくであろう。

でも、その時、先人が感じてこられた戸惑い・不安を払拭し、新たな命・ご家族ともが少しでも安心して人生を歩んでいけるようにとの願いから、今日の事業に繋がっている。そのなか大きな壁となっているのが人材の確保である。一人ひとりに向き合える、加重負担のかからない労働環境を整える努力はさることながら、学生や転職者にえのき会の情報を発信していかなければ、出会いすらない時代となり、求人活動には相当のコストが必要になった。その投資をしなければ、新たに地域貢献していくための拠点整備には着手できない。

今年はそれぞれどんな誕生日を迎えられるのであろうか。それぞれが輝く人生となるよう、実践を積み重ね、心豊かに成長できる場の拡充にご支援を宜しくお願い申し上げます。

☆ 同封致しました赤色の郵便振替用紙をご利用ください。

☆ 当法人発行の領収書は、確定申告で寄附金の控除が受けられます。

社会福祉法人えのき会

1口 1000円 となっています。1口以上でお願い致します。

00920-6-106339

### 編集後記

今回のニュースレターに登場の3人の利用者には、30年という歳の開きがあります。

3人の共通項は、片や生まれてから50年、片や20年間、わが子が成人した後も、親の介護が続いています。

今後、彼女たちがどういう暮らしをするのか先が見通せない中、親の不安は消えません。

ある与党議員が、わが子の介護を続ける親を前に「日本の伝統ある美しい家族の姿」と称賛しました。

老骨にムチ打ってわが子を介護する様子を「美しい家族の姿」と言われても、素直に喜べません。

弱者への視点も持ち合わせず、国民の声にも耳を傾けない、大きく右カーブした政権が、今、日本を支配しています。大企業や富裕層にのみ有利な社会が、着々とでき上がっています。

こんな国の形を、私たちは望んでいなかったはず。もう、あと戻りできない所までこの国は、来ているのかもしれない。(f)

□ 発行人・関西障害者定期刊行物協会  
大阪市天王寺区真田山町2-2  
東興ビル4F

□ 編集人：(福) えのき会 理事長 古川末子  
(法人本部)  
〒612-8002  
京都市伏見区桃山町山ノ下44-8



「榎の家」が楽しく過ごせる場所に・・・

今年一月より生活介護榎の家のサービ  
ス管理責任者となりました、平井健二郎  
と申します。至らぬ点も多々あるかと思  
いますが、皆様よりしくお願い致します。  
私はえのき会に入職しまして8年目と  
なります。初めて、榎の家に見学に来た  
際に、いわゆる施設とは違うアットホー  
ムな雰囲気が良いと思い榎の家で働くこ  
とを希望しました。

今まで榎の家で大切にしてきたアット  
ホームな雰囲気をこれから大  
事にしていきたいと思っております。  
十把ひとからげに利用者  
を見るのではなく、一人ひとりと  
じっくり関わる事、また、職  
員がそのように利用者と過ごせ  
る環境を整えていくことに微力  
ではありますが力を尽くしてい  
きたいと思っております。

介助を提供することも大事な  
仕事ではありますが、それだけでなく、  
あくまで利用者の人生にとって、「よい  
時間を過ごせる場所」  
であることに拘ってい  
きたいと思  
います。



榎の家で  
は、いわゆ



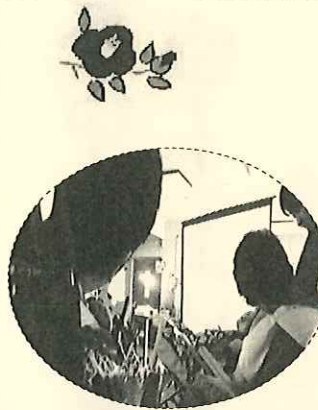
今年も一年、楽しく過ごせるよう頑張  
りますのでよろしくお願い致します。  
(榎の家 担当・平井健二郎)



も適切に対応ができるような仕組みを整  
えていきたいと思っております。

楽しい過ごし方の場としての安  
心、安全に力を入れていけれ  
ば、と考えています。

多少、堅苦しくはありません  
が、個人的には、利用者も  
職員も楽しく笑いあって過  
せることが一番のいい時間な  
のかな、と思っています。



さまざまな経験をしながら・・・



今年度、さくらの家では、新たに二組  
のボランティアの方に来て頂いています。  
一組目は、ご近所の女性が、朗読仲間の  
お2人と共に月に  
1回、利用者の前  
で朗読会を開いて  
下さっています。  
終わると利用者か  
ら、同じ本を「も  
う一回読んで」と  
リクエストされる  
ほど、楽しま  
れています。

「大きな無」では、皆で  
大きな無を作り、朗読に合わ  
せて引っこ抜いたり、小道具  
等を使ったりして、楽しんで  
います。



もう一組は、北堀公園の前  
にある、老人ホームにある喫茶  
店で月二回ギター演奏されている方  
が、さくらの家にも来てくださっていま  
す。利用者も、唄う人、楽器を鳴らす人  
など、それぞれ自  
由に楽しく参加し  
ています。



さくらの家からも、  
ギター演奏会があ  
る時に喫茶店へ行  
くこともあります。  
どちらのボランティ  
アの方も、終わっ

た後にコーヒーを飲みながら、ほっこり  
した時間を過ごしてもらっています。  
また、さくらの家では、二週間に一回、  
醍醐図書館で、好きな本を借りて職員に  
よる朗読会の日を設けています。沢山の  
本の中から、季節に合わせた本、好きな  
乗り物の本など、一人では持てないぐら  
い本を借りてきます。  
レクリエーションでは、利用者や職員  
ともに楽しんで、一人が笑顔になると自  
然と皆が笑顔になっている姿を見て、レ  
クリエーションの企画も増やしてい  
たいと思います。



(さくらの家・担当 白石衣代)

グループホーム  
ベルにおきまして  
は、昨秋に、事  
業所としては初め  
て、入居者様との  
1泊旅行に行っ  
てきました。今年度  
の最も大きな目標  
であり、また何分  
事業所として初め  
ての試みであり、期待と不安、無事に  
計画を立て、無事に帰って来られるだ  
ろうか・・・



どちらかといえば不安の方が大きかっ  
たように思いま  
す。計画を進め  
ていくにあたり、  
ベル所属の職員  
の共通した思い  
として、入居者  
様皆様に、「楽  
しかった」「ま  
た行きたい」と  
言って頂けるよ  
うな、思っ



ベルの皆で1泊旅行に行きました！

様、職員ともに笑いが絶えず、一言で  
「ベルらしい」旅行となりました。、同  
行させて頂いた職員としまして、大変  
貴重な経験をさせて頂き、そのような機  
会を頂いた入居者様、ご家族様に感謝の  
思いで一杯です。本当にありがとうございました。

さて、グループホームベルとしまして  
は、来年度に向けては「笑顔」をテーマ  
に取り組んでいきたいと考えております。  
「笑顔」この一言の中には色々な思いが  
込められています。まず心身ともに健  
康で無ければ笑顔は出ない、自分の思  
いが尊重されていなければ笑顔は出な  
い、何より楽しくなければ笑顔は出な  
い・・・日々関わらせて頂く職員とし  
ても同様だと思えます。

(GH・ベル担当・森下耕児)



「ハックベリー」が立ち上がり9年目  
を迎えます。ご利用者様が年齢を重ね  
る中で、体調変化を感じることもあり  
ますが、大きな病気にかかることなく  
過ごせていることが何より嬉しいこと  
です。



昨年は第三者評価  
を受ける機会をいた  
だき、業務を見直す  
ことができました。  
法人理念に対する  
意識の持ち方、業  
務にあたる際の心  
構えなど、職員個々  
が見つめなおし業務にあたることで  
きています。ご家族様にもアンケート  
にお答えいただき、ご協力を頂  
きました。



今年度は昨年計画できなかった旅行  
を企画中です。今まで3回のディ  
ズニランド旅行を経験されてい  
る6名ですが、そろそろ違う方向  
へ目を向けてもというご意見もい  
ただいております。

それをふまえ、利用者様の希望、  
ご家族様の思いをお伺いし、行先

ハックベリーの暮らし 9年目を迎えます！

選定をしていきたいと思っております。  
ご利用者様が非日常を楽しみ、また職  
員も一緒に楽しめるような旅行にしたい  
です。  
今年企画予定の旅行、月1回実施し  
ている外出企画、個人外出など、ご利用  
者様の楽しみに繋げていくためにも、  
根底にあるのは日々の安定した過ごし  
方にあると考えております。  
体調把握を行い、少しでも変化が  
みられた場合、迅速に主治医等に指  
示を仰ぎ、重症化に繋がらないよう  
にしていきたいです。また、安心して過  
ごせる環境づくりも継続して考えて  
いきます。食事面では「好きなメ  
ニューを食べたい」というリクエスト  
から生まれた「プレミアムサタデー」。  
毎週土曜日に6名が順番に好きなメ  
ニューを決め、世話人さんに作って  
もらっています。選んだメニュー  
を掲示し、周りに知らせる事で話題  
に上り、食卓での会話が増えました。  
今年も継続していき、ご利用者様の  
楽しみに繋げていきます。  
目指すは、ご利用者様、一緒に過  
す職員の笑顔があふれる「ハックベリー」  
です。どんなことが  
あっても最終的には  
笑顔になれるよう取  
り組んでいきたいで  
す。



パースティになすびのハンバーガー

(GHハックベリー  
担当・高尾良子)